

日本宗教学会 第 69 回学術大会

2010 年 9 月 3 日～5 日



東洋大学（白山キャンパス）

【3日会場】井上円了ホール（5号館 B2F） 【4・5日会場】6号館内

「お知らせ」と「お願い」

1. 受付手続きの際、必ず名札をお受け取り下さい。名札は、常に身に付け、お帰りの際にはご返却下さい。
2. 受付には、学会本部が出張しております。学会費未納の方はお納め下さい。
3. **発表題目、パネル構成員の変更は一切認められません。**プログラムと同一にして下さい。
4. 発表者は、発表の2番前に、発表会場の「発表者待機席」においで下さい。
 - ・申し込み時に、パワーポイント、OHP、スライドの使用を申請された方へ
 - 個人発表は発表の2人前、パネル発表は開始20分前までに、会場係にお申し出下さい。
5. 発表時に配布するレジюме・資料は、余裕をもってご用意の上、会場係にお渡し下さい。
6. **発表時間は以下のように構成されます。時間厳守でお願いします。**
 - ・個人発表 発表15分、質問5分、計20分（初鈴13分、二鈴15分、三鈴20分）
 - ・パネル発表 「発表者数×5分」をフロアからの質問時間として確保下さい。
それ以外の時間配分は、パネル運営者にお任せします。
7. 発表会場間の移動及び、プロジェクターなど機器の設置に時間が必要なことを加味して、個人発表終了後に5分間の休憩時間を設けています。この5分間を議論の延長などに使うことのないようお願いいたします。
8. 万が一、発表の取り消しがあった場合でも、その後の発表を詰めて行うことなく、予定時間通りに発表して頂きます。
9. **個人発表のレジюме（表紙・本文）・電子データについて**
提出先：部会責任者。本冊子23頁の「レジюмеの表紙」に必要な事項を記入し、本文と一緒にご提出下さい。
レジюмеは、紙原稿の他に、電子データの提出をお願いしています。
詳細は、22頁の「レジюмеの作成と提出の注意」をご覧ください。
10. **パネル発表のレジюме（表紙・本文）・電子データについて**
22頁の「レジюмеの作成と提出の注意」に従って作成して下さい。
発表者のレジюме（紙原稿と表紙）は、代表者がとりまとめて、大会最終日までに、部会責任者にご提出下さい。
電子データも、代表者が全員分をとりまとめて、9月10日までに、メールで学会事務局にご送信下さい。
代表者は、「パネルの主旨とまとめ」（パソコン原稿：1行40字×40行）と「パネルの欧文タイトル」を、9月20日までに、学会事務局にご送信下さい。
11. 日本語が母語でない方へ レジюмеは、必ず、日本語上の精査を受けた上で、ご提出下さい。
12. 所定の場所以外での喫煙は、ご遠慮下さい。

受付	3日 4・5日	井上円了ホール（5号館B2F） 6号館1F 通路
会員休憩室		6308 教室（6号館3F）
特別展示室		ラウンジ（5号館1F）
クローク	3日 4・5日	井上円了ホール（5号館B2F） 第3会議室（6号館1F）
学会本部		講師控室（6号館1F）
大会実行委員会		第3会議室（6号館1F）

大会日程

9月3日(金)

学会賞選考委員会	6212 教室	11:30~13:00
庶務委員会	6213 教室	13:00~14:30
国際委員会	6214 教室	13:00~14:30
情報化委員会	6215 教室	13:00~14:30
宗教文化士(仮称)検討委員会	6216 教室	13:00~14:30
開会式	井上円了ホール	14:30~14:40
公開シンポジウム	井上円了ホール	14:40~17:40
テーマ「アジアの近代化と宗教」		
講演	臼田雅之(東海大学) 陳 継東(武蔵野大学) 趙 景達(千葉大学) 菊地章太(東洋大学)	
モデレーター(司会)	宮本久義(東洋大学)	
理事会	6209 教室	18:00~20:30

9月4日(土)

研究発表(個人)	6号館内各会場	9:00~12:40
評議員選考委員会	6B11 教室	10:00~12:00
評議員会	6B13 教室	12:40~14:00
研究発表(パネル)	6号館内各会場	14:00~16:00
会員総会	6B13 教室	16:20~17:40
懇親会	6号館地下食堂	18:00~20:00

9月5日(日)

研究発表(個人)	6号館内各会場	9:00~12:15
編集委員会	6212 教室	12:15~13:00
プログラム委員会	6213 教室	12:15~13:00
研究発表(パネル)	6号館内各会場	13:15~15:15

公開シンポジウム

「アジアの近代化と宗教」

趣旨

本シンポジウムにおいては、インド、中国、日本、朝鮮半島などアジア地域における近代化と宗教との関わりを考察することにより、そこに見える普遍性と地域ごとの特殊性を探り、西欧の近代化がアジアの社会、宗教、文化にもたらしたものは何であったかを問う。

西欧における「近代」は、一般にルネッサンスや宗教改革をもって始まりとされる。マックス・ウェーバーが危惧したように、資本主義を基盤とする西欧の近代合理主義は、「逃れえない力」としてアジア地域に迫った。アジア諸地域においては、19世紀以降西欧からの「近代化」の波がおしよせ、各々が自国のアイデンティティの確立を迫られるようになった。そのような時期、仏教やヒンドゥー教といったアジアの伝統宗教は、西欧近代と出会い、その宗教自体の変容、あるいは宗教による社会変容という動きが各地で生じた。

アジアにおいて、西欧近代と宗教が最初に関わったのはインドであった。英国統治下のインドにおいては、特にベンガル地方を中心に、西欧的教育を受けたヒンドゥー教徒たちを中心とした「ベンガル・ルネッサンス」と呼ばれるヒンドゥー教復興運動が活発化し、その後民族運動、独立運動へとつながっていった。

中国においては、アヘン戦争敗北後、戊戌の政変などの近代化運動とその失敗、清国の崩壊とさらなる植民地化を経て中華民国の建国にいたった。このような変動の中で、例えば停滞していた仏教界では、太虚や楊文会を中心に仏教の復興運動が起こった。一方朝鮮半島においては、従来の朱子学や西欧からの西学とも異なる朝鮮独自の思想に根ざした東学運動が起こり、愛国啓蒙運動へと発展した。

また明治維新後の日本においては、急速に西欧化が進み、廃仏毀釈などを通じて仏教などの伝統宗教は衰退の一途をたどった。しかしながら、その西欧化がその後仏教自身に改革の気運をうながし、井上円了による仏教内部からの再生の推進、それに続く境野黄洋らの新仏教運動、また清沢満之らの精神主義運動が生まれた。

このように、アジアにおける近代化と宗教とは、一方は「社会から宗教へ」、他方は「宗教から社会へ」という2つのベクトルを持ちながら、多様な関係性を示している。またこの近代化は、現代における日本をふくむアジア地域の社会変動や現状の国際関係のそもそもの発端となっており、いま「アジアの近代化と宗教」について検証することは、現代社会のグローバル化とそれ自身がおよぼす連鎖的な諸問題を解決する一つの手掛かりとなり得るのではないかと考える。

近代インドの宗教状況—ブラフモ・サマージを中心に—

臼田雅之（東海大学）

インドと宗教はことさら密接な関係があると考えられている。にもかかわらず、日本における近代インドの宗教研究は不思議なくらい手薄である。本報告では、従来の議論の前提そのものを疑い、近代インドの宗教状況の実態を吟味することを通して、アジアの他地域との比較が可能になる地平を開く試みをしてみたい。ブラフモ・サマージという近代的宗派の歴史を参照しながら話を進めるが、ブラフモ・サマージの個別研究を目指すものではない。以下にあげるいくつかの大きな論点を提示して、研究の方向性を問い、比較のための材料を提供することを目的にするものである。

1. **インドはとりわけ宗教的か？**——「インド人は宗教的だが、日本人は宗教的でない」は、まったく疑われていない社会的通念のように思われる。長年近代インドを研究対象にしてきた報告者は「インド人は日本人と同じように宗教的でないし、日本人はインド人と同じように宗教的だ」と考えるに至っている。これが本報告の背景にある問いである。

2. **ラームモーハン・ローイ（1774—1833）のアプローチは宗教的か？**——ブラフモ・サマージという唯一神信仰と偶像崇拝を否定する近代的なヒンドゥー改革派の創始者と目されているラームモーハン・ローイは、宗教改革者といえるのだろうか。この点をローイのキリスト教との関わりについて検討してみたい。ローイが関与したキリスト教はユニテリアンであり、彼のキリスト教評価はその倫理面に集中する。それは福沢諭吉の態度と軌を一にしている。このことは何を意味するかを考えてみたい。

3. **インドを宗教的と表象したもの**——インドを宗教的と表象したのは、イギリス植民地政府の「植民地的差異の原理」であったと考えられる。そして、このことはインド社会をカーストやジャジマリーニ体制で理解しようとする通念とかたく結びついている。

4. **従来の近代インド宗教史の記述は、表層の動きを追うことに偏りすぎてはいないか？**——近代インド宗教史はごく大まかにいえば、前近代の墮落した「ヒンドゥー教」⇒宗教改革運動（ブラフモ・サマージはその前衛）⇒ヒンドゥー復古運動のように論述されてきたが、沈黙した深層を追う必要がある。

以上のような問いを踏まえつつ、ブラフモ・サマージの歴史の問題点を検討し、インドにおける近代化と宗教の関係について、いくつかの論点を提供してみたい。

求められた「宗教」—中国の近代化と仏教—

陳 継東（武蔵野大学）

日本の明治期の仏教を近代仏教と規定するならば、同時期の清朝末期の中国仏教は日本と同質の「近代」を経験したとは言い難い。なぜなら、日本の近代仏教が経験した激しい変化と比べて、中国仏教は全体的に旧態依然としており、近代的と呼ばれる要素が極めて少なかったからである。日本の近代仏教が国民国家や市民社会の形成に懸命に適応していく過程で、様々な近代的な変化を見せたのに対して、国家の近代化を背景とした中国仏教の変容はというと緩やかなものであった。そうはいうものの、一八九〇年代以降、仏教は近代国家の形成に欠かせない「宗教」として認識されるようになり、その社会的位置づけが大きく変動したことは注目に値する。多くの改革志向を持つ知識人は仏教を利用して、近代国家の樹立を目指した。これと同時に、仏教界から社会変革への発信も強まっていたのである。

本発表はこうした動きに焦点をあわせ、仏教がいかに再認識され、近代社会への転換に積極的に関わったかを明らかにする。同時に、中国仏教界が自ら取り組んだ組織や教学の再構築と、近代化への転換過程を探究し、これらに及ぼした近代日本仏教からの影響を考察したい。

具体的には、まずは、「宗教」という概念の形成過程を考察する。翻訳語としての「宗教」は日本語から移植された概念である。清末を代表した思想家の多くは宗教の問題を積極的に自分の思想体系に取り入れ、様々な思考を生み出し、さらに、生涯を通じて絶えずそれを思索してきた。一八九〇年代初期のうち、Religion（爾董利景）を神の崇拜とみて、中国に相応しくないものとして拒否した。しかし、その後半以降になると、中国の知識人の多くは宗教が近代国家の形成に欠かせないものだという認識をもつようになった。その認識には、宗教が国民を結束する役割を果たせること、近代的国家を実現するために、奉公無私、死を恐れぬという道徳を提供できるという理解が存在した。また、仏教こそ理想的な宗教だという共通認識も生まれた。それゆえ、宗教概念の成立を仏教認識の形成と関連づけて明らかにすることは、この時期の中国仏教のあり方とらえるための有効な切り口となるであろう。

以上のような宗教や仏教の理解は、近代国家の樹立をめざす動きの中で現われたもので、近代化の所産でもありつつ、近代化を推進する役割も果たした。近代国家の実現に求められる自立的な個人とはいかにして形成されるのかということは、清末思想界に提起された大きな課題となった。その答えは宗教、とりわけ仏教に求められた。そして、当時の西洋偏重の国際秩序において世界は文明と野蛮に峻別されるが、東洋を文明と認めない秩序に抵抗し打破するために、仏教は最も有力な思想として見直されるようになった。さらに、近代中国におけるナショナリズムの形成に際しても、仏教はその一翼を担った。こうして仏教は中国近代化の過程のなかで必須の宗教として求められ、脚光を浴びるようになったのである。本発表では上記の視点から、中国の近代化と仏教の関係について考察してみたい。

朝鮮の近代化と宗教—東学=天道教の歴史から—

趙 景達（千葉大学）

朝鮮における近代と宗教の問題を考えるにあたっては、東学=天道教について語るのが最も相応しい。東学は、宗教民衆的・民族的宗教として開国前夜に誕生し、反西学を唱え、甲午農民戦争の指導思想になりながら、その後は天道教として生まれ変わり、近代的宗教に急転回していった。近代化がこの宗教を変えたともいえるが、この宗教は近代化することによって民族運動の先頭に立ち、あるいは逆に民族運動に背理していった。ある意味では東学=天道教の歴史を語ることは、朝鮮の近代を語ることにもなる。

この宗教の歴史はおおよそ以下のように時期区分することができる。すなわち、①1860～1864年—（原始）東学の成立期、②1865～1894年—正統と異端の対立期、③1895～1905年—正統東学の確立期、④1906～1919年—天道教の成立期、⑤1920～1938年—天道教の全盛期、⑥1938～1945年—天道教の転向期である。

本報告では、これらの時期のうち、主に⑤の時期を対象として、天道教の近代的葛藤について考えてみたい。この時期は天道教が民族運動の先頭に立って啓蒙運動を華々しく展開するも、民族運動陣営から後退していく時期でもあり、また民衆の論理からも遠ざかっていく時期でもある。天道教の近代的葛藤が最も見えやすい時期であるといえるであろう。

内容としてはまず、天道教随一の理論家であった李敦化の天道教理論の展開を概観することにする。天道教はこの時期、以前から見られた朱子学的方向への転回をより深くしていくが、そのことを李敦化の理論の内に探ってみたい。そしてその後で、天道教の文化運動や通俗運動について見てみることにする。天道教の通俗運動に対応した教本としては、『天道教理読本』があるが、この教本の内容についても吟味してみたい。この教本には東学=天道教がいかに変異していったかが端的に示されている。また、当該期は天道教が大きく新派と旧派に分かれた分裂期でもあるが、各々は別個に民族運動や文化運動に積極的に関わっていった。その様相や論理についても考えてみたい。

寺院なくして信仰は成り立つか—哲学者井上円了の挑戦—

菊地章太（東洋大学）

寺院や教団を離れたところで仏教の信仰は可能か。

明治二十年（1887）に私立哲学館、現在の東洋大学を創立した井上円了は、諸学の根柢を哲学に求めた。仏教が時代に取り残されようとした時代である。真宗寺院に生まれ育った円了は、仏教を哲学として理解しようとしてつとめ、仏教の語彙ではなく日常の語彙によって仏教を語ろうとした。前代未聞の試みである。みずからの思索にもとづく仏教理解という方向から、さらに進んで寺院や既成教団から独立した信仰と実践の可能性を切り開こうとした。寺院によらざる信心はあり得るか。教団に属さない宗教実践がはたして可能か。これこそが近代化の怒濤のなかで仏教存続のありようを模索した円了が導き出した問いであった。

円了が問うところの教団に依存しない実践があり得るならば、それを行なうための在家集団の組織化を促すであろう。境野黄洋らによる仏教清徒同志会の結成はその典型である。田中智学による立正安国会はその規模を拡大して在家主義を徹底させた。また、寺院を離れた信心があり得るならば、それは主体的な個人による信仰の追求に向かうであろう。清沢満之の精神主義はこの方向に邁進していく。さらに、伝統にとらわれない革新をめざすとき、時代に即した聖典の形式が要求されるであろう。河口慧海がチベットからもたらした仏典を新訳したのはその一例である。このような仏教再生のさまざまな試みはやがて仏教の枠を越え、それまでにない宗教の存在形態を創出させた。内村鑑三による無教会主義はこうした仏教界の動きと無関係ではなからう。

寺院や教会なくして信仰は成り立つか。個人でも信仰をもつことができるのか。今ならば問うまでもないこの問いが、明治も終盤をむかえる時代の宗教者にとって抜きさしならない課題となった。その背後には、近代の日本において個人の実現がはたして可能かという別の大きな問いがひそんでいる。それはともあれ、こうした新たな信仰の発見とともに失われていくものも少なくなかった。共同体が担っていた巨大な信仰の遺産のなかには、そのまま途絶していった民俗や芸能もある。その掘り起こしが次代の「大正日本」の課題として残された。

4日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|----------------|
| 1. 9:00-9:20 | 虚構の現代的可能性について—認知宗教学序説— | 谷内 悠 (東大) |
| 2. 9:25-9:45 | 宗教概念に関わる諸問題の奥深さ—問われざるを得ない本質— | 宇都宮輝夫 (北大) |
| 3. 9:50-10:10 | 近年の宗教理論における死と宗教—合理的選択理論の考察— | イーリヤ・ムスリン (東大) |
| 4. 10:15-10:35 | 神の存在論的証明の問題圏 | 村上 喜良 (立正大) |
| 5. 10:40-11:00 | 宗教的共感の源泉—東西靈性交流の場合— | 峯岸 正典 |
| 6. 11:05-11:25 | 宗教間対話の内的側面と外的側面 | 武藤 亮飛 (筑波大) |
| 7. 11:30-11:50 | 日本型シンクレティズムへの—考察 | 白山芳太郎 (皇學館大) |
| 8. 11:55-12:15 | さまざまな政教分離、さまざまな世俗化—ポスト近代的考察— | 中野 毅 (創価大) |

【午後】

- | | | |
|------------------------------|-----------------------------|----------------------|
| パネル 宗教間対話の思想—その歴史と理論— | | 代表者：矢内 義頭, 5名, 120分 |
| 14:00-16:00 | ロジャー・ベーコンにおける宗教と科学 | 降旗 芳彦 (実践女子大) |
| | パラマスとバルラムの対話—14世紀ビザンツの平和思想— | 橋川 裕之 (静岡県立大) |
| | クザーヌスにおける寛容の思想 | 佐藤 直子 (上智大) |
| | エラスムスの平和思想における宗教間対話の思想とその限界 | 比留間亮平 (立教大) |
| | | コメンテータ・司会：矢内 義頭 (早大) |

5日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 9:00-9:20 | アウグスティヌス『告白』におけるアカデミア派懐疑論の意義 | 山田庄太郎 (筑波大) |
| 2. 9:25-9:45 | 「神を巡る意図」について—マルグリット・ポレートの異端問題— | 村上 寛 (早大) |
| 3. 9:50-10:10 | 古代末期におけるディオニューソス像—ノンノスに基づく考察— | 石見衣久子 (新潟大) |
| 4. 10:15-10:35 | 聖典最古層の定義に関する検討—受難物語を例として— | 土居 由美 (立教大) |
| 5. 10:40-11:00 | ギルベルトウス・クリスピヌス『キリスト教徒とユダヤ人の討論』 | 矢内 義頭 (早大) |
| 6. 11:05-11:25 | クザーヌスにおけるordoの観念—『推測について』を中心に— | 島田 勝巳 (天理大) |
| 7. 11:30-11:50 | プロクロス『ティマイオス註解』における靈魂の問題 | 土井 裕人 (筑波大) |
| 8. 11:55-12:15 | ナジアンゾスのグレゴリオスの救貧思想—第14講話を中心に— | 土井 健司 (関西学院大) |

【午後】

- | | | |
|--|----------------------------|---------------------|
| パネル エリアーデのhistory of religionsとstoria delle religioni | | 代表者：江川 純一, 5名, 120分 |
| 13:15-15:15 | エリアーデ宗教学形成期におけるナエ・イヨネスクの影響 | 佐藤慎太郎 (東北大) |
| | クリアーヌから見たエリアーデ宗教学批判の再考 | 奥山 史亮 (北大) |
| | エリアーデ宗教学とイタリア時代のクリアーヌ | 佐々木 啓 (北大) |
| | イタリア宗教学派とエリアーデ | 江川 純一 (東京工科大) |
| | | コメンテータ：奥山 倫明 (南山大) |
| | | 司会：江川 純一 (東京工科大) |

第2部会

6201 教室

4日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|---------------------------------|------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 紀元前2千年紀前半のメソポタミアにおける誓い | 笠谷 美穂 (東洋英和女学院大) |
| 2. 9:25- 9:45 | ユダヤ教共同体内における他者像—異端者 (ミーニーム) 再考— | 櫻井 丈 (東大) |
| 3. 9:50-10:10 | メソポタミアの契約における神の役割 | 渡辺 和子 (東洋英和女学院大) |
| 4. 10:15-10:35 | ヘブライカ・ウェリタスのロジック—ヒエロニムスの聖書理解— | 加藤 哲平 (同志社大) |
| 5. 10:40-11:00 | 中世ユダヤ教における「イスラエルの地」 | 志田 雅宏 (東大) |
| 6. 11:05-11:25 | 紀元前7世紀後半の古代イスラエルにおける社会諸集団の分析 | 高橋 優子 (立教大) |
| 7. 11:30-11:50 | シャブタイ派思想の反規範主義とドンメ教団への影響 | 山本 伸一 (東大) |
| 8. 11:55-12:15 | ゾロアスター教ズルヴァーン主義研究 | 青木 健 (早大) |
| 9. 12:20-12:40 | 中世思想におけるマイモニデスの位置づけ | 神田 愛子 (同志社大) |

5日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 創世記22章の哲学的解釈—日本の解釈者が前提とするもの— | 岩崎 大悟 (関西学院大) |
| 2. 9:25- 9:45 | ロマ書8:28とタルムードのペラホート60bの解釈と翻訳 | 野口 誠 |
| 3. 9:50-10:10 | 東方正教の奉神礼の構成について—復活祭準備期間を中心として— | 中西 裕一 (日大) |
| 4. 10:15-10:35 | マイスター・エックハルトの「反復語法」と異端審問判定 | 田島 照久 (早大) |
| 5. 10:40-11:00 | 肉の現象学におけるキリスト教的コギト | 伊原木大祐 (北九州市立大) |
| 6. 11:05-11:25 | サン=シモン派の宗教感情論批判 | 杉本 隆司 (羽衣国際大) |
| 7. 11:30-11:50 | ルドルフ・シュタイナーにおけるドイツ哲学と神智学の関係 | 野口 孝之 (東大) |
| 8. 11:55-12:15 | ルドルフ・シュタイナーの神秘主義における倫理性 | 西井 美穂 (広島大) |

第3部会

6202 教室

4日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|--------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 宇宙の直観と高次の自我—ドイツ初期ロマン主義における神概念— | 田口 博子 (工学院大) |
| 2. 9:25- 9:45 | シェリングとヘーゲルにおける神について | 諸岡道比古 (弘前大) |
| 3. 9:50-10:10 | 信仰告白と信仰宣言—キルケゴールとマルセルを参考に— | 小林 敬 (酪農学園大) |
| 4. 10:15-10:35 | ブーバーにおける「神の実現」 | 大川 武雄 |
| 5. 10:40-11:00 | ベルジャーエフの歴史哲学について | 元春 智裕 |
| 6. 11:05-11:25 | 崇高の宗教論—エドモンド・バークを手がかりに— | 近藤 剛 (神戸国際大) |
| 7. 11:30-11:50 | 宗教的アプリアリ論再考—エルンスト・トレルチを中心に— | 小柳 敦史 (京大) |
| 8. 11:55-12:15 | 初期唯識思想とフッサール現象学に見られる生動性の比較考察 | 阿部 旬 (大正大) |

5日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|----------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 不二一元論学派の他学派批判 | 佐竹 正行 (東洋大) |
| 2. 9:25- 9:45 | インド仏教論理学から見た討論術 | 齋藤章太郎 (筑波大) |
| 3. 9:50-10:10 | A. K. クーマラスワミーの解釈学 | 渡邊たまき (筑波大) |
| 4. 10:15-10:35 | ラーマクリシュナとインドの社会改革運動 | 堀内みどり (天理大) |
| 5. 10:40-11:00 | マハトマ・ガンディーにおける宗教倫理と政治思想 | 外川 昌彦 (広島大) |
| 6. 11:05-11:25 | 『ティルトンダル・プラーナム』とバクタをめぐる諸問題 | 山下 博司 (東北大) |
| 7. 11:30-11:50 | Brahmasiddhi 韻文部に関する一考察 | 黒田 泰司 (大阪学院大) |
| 8. 11:55-12:15 | R. オットーの宗教理解とヒンドウ教 | 澤井 義次 (天理大) |

第4 部会

6203 教室

4日(土)

【午前】

- | | |
|---|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 隠喩と宗教哲学 | 河合 裕子 (同志社大) |
| 2. 9:25- 9:45 レヴィナスの家族的概念にみられる宗教性について | 石山晃一郎 (東大) |
| 3. 9:50-10:10 相関と回心—ティリッヒとアウグスティヌスの場合— | 松田健三郎 (天理大) |
| 4. 10:15-10:35 ティリッヒとR. ニーバーにおける「深みの次元」 | 澤井 治郎 (東北大) |
| 5. 10:40-11:00 ティリッヒにおける時間と空間の問題—存在論と歴史の関係— | 鬼頭 葉子 |
| 6. 11:05-11:25 J. G. ドロイゼンにおける歴史主義と解釈学 | 安酸 敏真 (北海学園大) |
| 7. 11:30-11:50 ヤスパース『真理について』における実存的交わり | 布施 圭司 (米子工業高専) |
| 8. 11:55-12:15 ヤスパースとティリッヒ | 岡田 聡 (早大) |
| 9. 12:20-12:40 ミシェル・アンリにおける神のことばと実践について | 古荘 匡義 (京大) |

5日(日)

【午前】

- | | |
|--|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 『リサーラ・アル=イスラーム』誌とイスラーム改革思想 | 勝畑 冬実 (東京外国語大) |
| 2. 9:25- 9:45 廻心の思想とタウバの思想 | 徳田 幸雄 (日本学術振興会) |
| 3. 9:50-10:10 ジュナイドの神秘主義論と「原初の契約」 | 澤井 真 (東北大) |
| 4. 10:15-10:35 アブドゥラ・バダウィの文明的イスラーム論におけるジハード | 浜本 一典 (同志社大) |
| 5. 10:40-11:00 イスラームにおける供犠と聖典の社会機能—人類学からの考察— | 小杉麻李亜 (日本学術振興会) |
| 6. 11:05-11:25 現代シリアのイスラーム言説に見るユダヤ教への言及 | 高尾賢一郎 (同志社大) |
| 7. 11:30-11:50 イスラーム行政と「政教分離」国家の中のアレヴィー教育の位置 | 佐島 隆 (大阪国際大) |
| 8. 11:55-12:15 F. シュオンとイスラーム | 中村廣治郎 (東大) |

第5 部会

6204 教室

4日(土)

【午前】

- | | |
|--|---------------------|
| 1. 9:00- 9:20 J. M. シャルコーの神経学と悪魔祓い | 斎藤 喬 (東北大) |
| 2. 9:25- 9:45 性的フェティシズムと崇拜の概念 | クリストフ・マスドブリュー (島根大) |
| 3. 9:50-10:10 ウィリアム・ジェームズの救済論 | 林 研 (大谷大) |
| 4. 10:15-10:35 アンリ・コルバンにおけるmundus imaginalis 概念の意義 | リアナ・トルファッシュ (筑波大) |
| 5. 10:40-11:00 J. Z. スミスのエリアーデ批判について | 木村 武史 (筑波大) |
| 6. 11:05-11:25 ウェーバー・テーゼと鈴木正三—山本七平・小室直樹説の再検討— | 三浦 雅彦 (愛知学院大) |
| 7. 11:30-11:50 ヴェーバーと西山茂らの生命主義的救済観—反近代主義批判— | 池田 昭 |
| 8. 11:55-12:15 西谷啓治とタルル・アサド—「宗教」への問いをめぐって— | 小野 真 (相愛大) |
| 9. 12:20-12:40 岡本太郎にみるミルチャ・エリアーデの影響 | 佐々木秀憲 (岡本太郎美術館) |

5日(日)

【午前】

- | | |
|---|-------------------|
| 1. 9:00- 9:20 チベット東縁部における仏塔建立と民族アイデンティティの諸相 | 別所 裕介 (広島大) |
| 2. 9:25- 9:45 アジアの近代化とチベット問題の淵源—チュン・主権・宗主権— | 田崎 國彦 (東洋大) |
| 3. 9:50-10:10 現代モンゴルにおける「痛み」と「救い」のあいだ | 滝澤 克彦 (東北大) |
| 4. 10:15-10:35 古代中国の死生観—漢代画像石にみる死者の“中心性”について— | 濱田 倫子 (東大) |
| 5. 10:40-11:00 不還の心としての金丹—道教内丹思想と『首楞嚴經』の関係— | 長澤 志穂 (南山宗教文化研究所) |
| 6. 11:05-11:25 『医心方』古医書輯佚から見る東アジア5~9世紀の仏教と医学 | 多田 伊織 (皇學館大) |
| 7. 11:30-11:50 清末民国期中国における「進化」と「宗教」 | 住家 正芳 (北大) |
| 8. 11:55-12:15 近代中国における国民道徳と宗教—章炳麟を中心にして— | 葛 睿 (東北大) |

4日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 米国における「宗教の倫理化」 | 庄司 一平 (東北生活文化大) |
| 2. 9:25- 9:45 | アンテベラム期アメリカの反カトリック主義と「近代化」 | 佐藤 清子 (東大) |
| 3. 9:50-10:10 | 創造論と進化論—生命の起源に関する論争を手がかりとして— | 十津 守宏 (鈴鹿短大) |
| 4. 10:15-10:35 | 移民の社会的統合をめぐるドイツ宗教間対話の新展開 | 堀 彩子 (一橋大) |
| 5. 10:40-11:00 | シュヴァイツァーにおける倫理思想史の諸問題について | 岩井謙太郎 (京大) |
| 6. 11:05-11:25 | 知識社会と宗教経験の問題—ジョン・ヒックの議論を中心に— | 方 俊植 (京大) |
| 7. 11:30-11:50 | 世俗概念にまつわる言説空間—現代日本の場合— | 近藤 光博 (日本女子大) |
| 8. 11:55-12:15 | 気候変動と宗教 | 野村 誠 (共愛学園前橋国際大) |
| 9. 12:20-12:40 | 世界諸宗教と世界倫理(global ethic) | 土田 友章 (早大) |

【午後】

- パネル 死者とそのリアリティの現在—私事化・心理化と専門化の狭間で—** 代表者：津城 寛文, 5名, 120分
- | | | |
|-------------|--------------------------|------------------|
| 14:00-16:00 | 密教としての死者祭祀・顕教としての死者祭祀 | 津城 寛文 (筑波大) |
| | 終末期医療における民俗とスピリチュアリティ | 諸岡 了介 (島根大) |
| | 死者と無意識—異界交渉技術としての能動的想像法— | 葛西 賢太 (宗教情報センター) |
| | 死後生の心理化—メモリアリズムの内的他界— | 堀江 宗正 (聖心女子大) |
- コメンテータ：池上 良正 (駒大)
司会：津城 寛文 (筑波大)

5日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 南方占領地の宗務行政について | 大澤 広嗣 (文化庁) |
| 2. 9:25- 9:45 | 近代日本仏教と中国東北部 | 野世 英水 (龍大) |
| 3. 9:50-10:10 | 東アジア諸国の国家権力と祭祀—近世日本と朝鮮・ベトナム— | 井上 智勝 (大阪歴史博物館) |
| 4. 10:15-10:35 | オウム真理教の構造—ロマン主義・全体主義・原理主義— | 大田 俊寛 (埼玉大) |
| 5. 10:40-11:00 | 秋葉隆の「二重構造モデル」再考 | 新里 喜宣 (東大) |
| 6. 11:05-11:25 | 韓国の儒教思想と「水子供養」—仏教徒の妊娠中絶に関する考察— | 淵上 恭子 |
| 7. 11:30-11:50 | 現代韓国社会における「恨」の変遷—統一教を中心に— | 古田 富建 (帝塚山学院大) |
| 8. 11:55-12:15 | 統一教会の宣教戦略 | 櫻井 義秀 (北大) |

4日(土)

【午前】

- | | |
|--|--------------|
| 1. 9:00- 9:20 『雑阿毘曇心論』業品における三障の軽重について | 智谷 公和(相愛大) |
| 2. 9:25- 9:45 仏陀の唯識と世親の唯識 | 那須 円照(龍大) |
| 3. 9:50-10:10 曇鸞浄土教思想における願生者の一考察 | 溪 英俊(龍大) |
| 4. 10:15-10:35 唐代翻經院における潤文について | 大屋 正順(大正大) |
| 5. 10:40-11:00 『勅修百丈清規』における唱衣法一遺品の動きを中心に一 | 金子 奈央(東方研究会) |
| 6. 11:05-11:25 吉蔵の仏身の理解について | 藤野 泰二(立正大) |
| 7. 11:30-11:50 アティシヤに帰される秘密集会タントラ関連の文献について | 望月 海慧(身延山大) |
| 8. 11:55-12:15 正・妙法華経と「無我」について | 真野 龍海(大正大) |

【午後】

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| パネル インドの宗教における出家と在家 | 代表者：西尾 秀生, 5名, 120分 |
| 14:00-16:00 ジャイナ教における出家と在家 | 杉岡 信行(東方研究会) |
| 律蔵における出家と在家 | 龍口 明生(龍大) |
| 『バガヴァッド・ギーター』における出家と在家 | 西尾 秀生(近大) |
| 近代思想における出家と在家 | 北川 清仁(近大) |
| | コメンテータ：渡邊 親文(阪大) |
| | 司会：西尾 秀生(近大) |

5日(日)

【午前】

- | | |
|---|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 石田梅岩の思想と宗教体験 | 澤井 努(京大) |
| 2. 9:25- 9:45 心学者としての川尻實岑—近現代の石門心学— | 中道 豪一(神奈川大) |
| 3. 9:50-10:10 五井蘭洲の思想 | 清水 光明(東大) |
| 4. 10:15-10:35 山崎闇齋における「中」概念の神道的展開 | 孫 傳玲(名大) |
| 5. 10:40-11:00 護法論の陥穽—伴林光平の事例を中心に— | 森 和也(東方研究会) |
| 6. 11:05-11:25 藤樹の和歌 | 鈴木 保實 |
| 7. 11:30-11:50 平田篤胤と道教—『赤県太古伝』『葛仙翁伝』など— | 坂出 祥伸(森ノ宮医療大) |

4日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 一念三千についての試論—デイヴィドソンの観点から— | 渡辺 隆明 (大正大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 安然の一仏一乘義について | 土倉 宏 (東洋大) |
| 3. 9:50-10:10 | 法然門下における「浄土往生後の菩薩の階位」設定の背景 | 那須 一雄 |
| 4. 10:15-10:35 | 鎌倉長谷寺出土写経骨にみる往生観—真言律宗との関連から— | 立花 弥生 (東方研究会) |
| 5. 10:40-11:00 | 関寺における聖の役割 | 長澤 昌幸 (京都西山短大) |
| 6. 11:05-11:25 | 長谷川等伯が観た法華経の龍 | 筒井 奈々 |
| 7. 11:30-11:50 | 12世紀末までの真言宗の新羅仏教認識について | 福士 慈稔 (身延山大) |
| 8. 11:55-12:15 | 安然誕生の地について—千葉県茂原市に伝わる石碑について— | 若林 建志 (東洋大) |
| 9. 12:20-12:40 | 路傍の地藏像の歴史的考察—地藏祭りを手がかりに— | 清水 邦彦 (金沢大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|--------------------------------------|---------------------|
| パネル | 〈靈魂の学知〉と政治運動—19世紀の鈴屋と気吹舎を焦点に— | 代表者：松本 久史, 6名, 120分 |
| 14:00-16:00 | 鈴門国学者と因伯神葬祭運動 | 松本 久史 (國學院大) |
| | 『靈能真柱』に語られた神と靈魂 | 小林 威朗 (國學院大) |
| | 下総における幽冥観の展開—気吹舎門人とその周辺— | 小田 真裕 (一橋大) |
| | 黄泉国論争—平田国学の他界像と近代— | 遠藤 潤 (國學院大) |
| | 飯田年平から見た平田国学 | 三ツ松 誠 (日本学術振興会) |
| | | コメンテータ：加瀬 直弥 (國學院大) |
| | | 司会：遠藤 潤 (國學院大) |

5日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|--------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 一般神社祭式と特殊祭儀 | 竹内 雅之 (國學院大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 生命主義的思想に関する一考察 | 鈴木 一彦 (國學院大) |
| 3. 9:50-10:10 | 大宜津比売を殺すということ—『古事記』の中の須佐之男命— | 小濱 歩 (國學院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 木曾御嶽信仰における神靈観—御嶽講にみる觀念と儀礼— | 関 敦啓 (愛知学院大) |
| 5. 10:40-11:00 | 増穂残口と「俗神道」 | 井関 大介 (東大) |
| 6. 11:05-11:25 | 幕末期の鎮魂祭 | 山口 剛史 (皇學館大) |
| 7. 11:30-11:50 | 現代熊野における修験系教団の展開 | 天田 顕徳 (筑波大) |
| 8. 11:55-12:15 | 修験道の地域的展開 | 宮家 準 (慶大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|----------------------|-------------------------|
| パネル | 日本神話研究—回顧と展望— | 代表者：松村 一男, 4名, 100分 |
| 13:15-14:55 | 日本における民族学的神話研究 | 山田 仁史 (東北大) |
| | 外国人による日本神話研究 | 松村 一男 (和光大) |
| | 日本の心理学的神話研究の歴史と特徴 | 高橋 原 (東大) |
| | | コメンテータ・司会：丹羽 泉 (東京外国語大) |

4日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|-------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 善鸞伝承の背景 | 御手洗隆明(真宗大谷派教学研究所) |
| 2. 9:25- 9:45 | 慈信房善鸞上人と東国の信仰 | 藤井 淳(東大) |
| 3. 9:50-10:10 | 親鸞における「宗教」の概念—現代的理解の可能性を兼ねて— | 陳 敏齡(輔仁大) |
| 4. 10:15-10:35 | 親鸞の改名について—元久二年「親鸞」改名説への疑問— | 鶴見 晃(真宗大谷派教学研究所) |
| 5. 10:40-11:00 | 親鸞における毒と薬の譬えについて | 新保 哲(文化女子大) |
| 6. 11:05-11:25 | 親鸞の妻玉日姫再考 | 松尾 剛次(山形大) |
| 7. 11:30-11:50 | 親鸞における浄土の二重構造的性について | 加藤 智見(東京工芸大) |

5日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 存覚上人における教学的特徴 | 川野 寛(龍大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 現代真宗寺院の僧侶・門徒関係における実践と教義的規範 | 清原 一行(九大) |
| 3. 9:50-10:10 | アメリカの浄土真宗と仏教教育—移民初期の日曜学校を例に— | 本多 彩(兵庫大) |
| 4. 10:15-10:35 | パウロと親鸞の宗教的自覚 | 南部千代里(日大) |
| 5. 10:40-11:00 | 真宗僧佐田介石における護国思想と護法思想—須弥山説を巡って— | 常塚 聡(親鸞仏教センター) |
| 6. 11:05-11:25 | 蓮如の諸行観と本師本仏論 | 高田 未明(龍大) |
| 7. 11:30-11:50 | 恵信尼の宗教心について | 安藤 章仁(龍大) |

4日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------|--------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 日蓮教学の起点としての『立正安国論』について | 関戸 堯海 (立正大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 日蓮の法難をめぐる認識 | 寺尾 英智 (身延山大) |
| 3. 9:50-10:10 | 勢至菩薩経と金綱集一両書研究の一視点一 | 堀部正円(孝二) |
| 4. 10:15-10:35 | 備前法華と岡山藩一藩内秩序と宗教をめぐる問題一 | 坂輪 宣政 (立正大) |
| 5. 10:40-11:00 | 板倉勝澄公と法華信仰 | 長倉 信祐 (富士学林) |
| 6. 11:05-11:25 | 身延山巡拝記に記された寺院・霊跡の比較 | 望月 真澄 (身延山大) |
| 7. 11:30-11:50 | 近代日本における日蓮仏教の諸相 | 三輪 是法 (身延山大) |

5日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 新渡戸稲造と「農」 | 森上 優子 (お茶の水女子大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 岸本英夫の回心に見る現代宗教の可能性 | 中村みどり |
| 3. 9:50-10:10 | 鈴木大拙の思想に於ける逆説と言葉 | 清水 守拙 |
| 4. 10:15-10:35 | 鈴木大拙の大悲 | 嶋本 浩子 (日本経済大) |
| 5. 10:40-11:00 | 鈴木大拙の「大地」概念 | 村山 保史 (大谷大) |
| 6. 11:05-11:25 | 西田哲学と現象学一宗教と哲学の間一 | 岡 廣二 (十文字高) |
| 7. 11:30-11:50 | グリーンフケアと宗教一西田幾多郎を事例として一 | 浅見 洋 (石川県立看護大) |
| 8. 11:55-12:15 | 「東国の学風」について一鈴木大拙と柳田國男一 | 関 一敏 (九大) |

【午後】

- | | | |
|------------------------------|--------------|----------------------|
| パネル 戦後知の可能性一宗教と歴史の交差一 | | 代表者：林 淳, 5名, 120分 |
| 13:15-15:15 | 村上重良と政教分離 | 林 淳 (愛知学院大) |
| | 黒田俊雄と顕密体制論 | 安丸 良夫 (一橋大) |
| | 吉本隆明の宗教観と宗教性 | 島藺 進 (東大) |
| | 酒井直樹と普遍主義 | 磯前 順一 (国際日本文化研究センター) |
| | | コメンテータ：桂島 宣弘 (立命館大) |
| | | 司会：林 淳 (愛知学院大) |

4日(土)

【午前】

- | | |
|--|----------------------|
| 1. 9:00- 9:20 「近代日本の宗教教育」研究の動向と可能性 | 齋藤 知明 (大正大) |
| 2. 9:25- 9:45 横川顕正における「禅と念仏」の問題 | 和田 真二 (帝塚山学院大) |
| 3. 9:50-10:10 啓蒙から修養へー井上円了は仏教を哲学化したかー | 岡田 正彦 (天理大) |
| 4. 10:15-10:35 山崎弁栄と神秘主義 | 本多 亮 (大正大) |
| 5. 10:40-11:00 戒律と仏教の近代ー十善戒と国民道徳ー | 繁田 真爾 (早大) |
| 6. 11:05-11:25 道元解釈から見た西谷啓治の禅哲学 | 杉本 耕一 (日本学術振興会) |
| 7. 11:30-11:50 二人のハンセン病医師の仏教観ー小笠原登と早田皓ー | 菱木 政晴 (同朋大) |
| 8. 11:55-12:15 仏教改革としての禁酒ー『反省会雑誌』を手がかりにー | 江島 尚俊 (大正大) |
| 9. 12:20-12:40 尊皇奉仏大同団とその思想的為 | オリオン・クラウタウ (日本学術振興会) |

【午後】

- パネル 近代仏教／メディア／大学** 代表者：吉永 進一, 5名, 120分
- 14:00-16:00 高輪仏教大学と万国仏教青年連合会 岩田 真美 (龍大)
- 櫻井義肇と雑誌メディアー『新公論』を中心にー 安藤 礼二 (多摩美術大)
- 丙午出版社と近代仏教出版文化 大谷 栄一 (佛教大)
- 「観客」から「弟子」へー大乘協会と欧米仏教徒たちー 吉永 進一 (舞鶴工業高専)
- コメンテータ：末木文美士 (国際日本文化研究センター)
- 司会：大谷 栄一 (佛教大)

5日(日)

【午前】

- | | |
|---|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 柳田民俗学における信仰と懐疑ーデモクラシーとの関係からー | 及川 高 (筑波大) |
| 2. 9:25- 9:45 児童文学の宗教性ー宮沢賢治の童話を手がかりにー | 大澤千恵子 (恵泉女学園大) |
| 3. 9:50-10:10 近代心学史の一断面ー高崎正風と一徳會ー | 宮本 誉士 (國學院大) |
| 4. 10:15-10:35 熊本時代の中西牛郎ー明治十年代の宗教論の位相ー | 星野 靖二 (國學院大) |
| 5. 10:40-11:00 反民権運動としての神道ー開知新聞と民権派新聞の論説からー | 小川 有閑 (東大) |
| 6. 11:05-11:25 宮地巖夫の近代 | 黒田 宗篤 (阪大) |
| 7. 11:30-11:50 開化政策と宗教変動ー奈良の事例からー | 幡鎌 一弘 (天理大) |
| 8. 11:55-12:15 大正期再臨運動における思想的背景 | 黒川 知文 (愛知教育大) |

【午後】

- パネル 実証的宗教社会学研究の成果と課題** 代表者：井上 治代, 5名, 120分
- 13:15-15:15 地域社会と宗教ー文化変容・土着化概念の射程ー 寺田 喜朗 (鈴鹿短大)
- 社会状況と宗教ー時代社会・法制度と宗教・教団ー 小島 伸之 (上越教育大)
- 宗教運動ー新宗教研究の成果を中心にー 大西 克明 (東洋大)
- 先祖祭祀ー位牌・墓調査研究の成果と課題ー 井上 治代 (東洋大)
- コメンテータ：藤井 健志 (東京学芸大)
- 司会：小島 伸之 (上越教育大)

4 日 (土)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|-----------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 日本近世仏教におけるキリスト教批判 | 西村 玲 (東方研究会) |
| 2. 9:25- 9:45 | 日本仏教史から見た『妙貞問答』 | 前川 健一 (国際日本文化研究センター) |
| 3. 9:50-10:10 | 明治政府の宗教政策とキリシタン集落 | 内藤 幹生 (大正大) |
| 4. 10:15-10:35 | キリスト教伝道とアイヌ民族—チカップ美恵子に学ぶ— | 長谷川(間瀬)恵美 (南山宗教文化研究所) |
| 5. 10:40-11:00 | 自然体験と見神をめぐる2つの思想潮流—梁川以後と鑑三以後— | 柴田真希都 (東大) |
| 6. 11:05-11:25 | アジア・太平洋戦争の終結と「キリスト教ブーム」 | 川口 葉子 (阪大) |
| 7. 11:30-11:50 | 日本軍および自衛隊におけるキリスト教 | 石川 明人 (北大) |
| 8. 11:55-12:15 | 日本における「背教者」ユリアヌスの受容に関する考察 | 中西 恭子 (明治学院大) |
| 9. 12:20-12:40 | 豊橋市における在日ブラジル人カトリック信徒の共同体について | 星野 壮 (大正大) |

5 日 (日)

【午前】

- | | | |
|----------------|----------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 「スピリチュアル」ブームとハワイ表象 | 竹村 初美 (多摩大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 「迷宮」図像群の現代におけるリヴァイヴァル現象 | 中島和歌子 (東大) |
| 3. 9:50-10:10 | 現代ヨーガの系譜—スピリチュアリティ文化との融合に着目して— | 伊藤 雅之 (愛知学院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 修行法としてのグルジェフの祈り | 宇野 功一 (放送大) |
| 5. 10:40-11:00 | 釜石市のシャーマニズム—23年後の現状— | 佐藤 憲昭 (駒大) |
| 6. 11:05-11:25 | 風水の圍繞空間形成と沖縄の抱護 | 鈴木 一馨 (東方研究会) |
| 7. 11:30-11:50 | 都市「霊能者」の自己物語に見る現代宗教の位相 | 村上 晶 (筑波大) |
| 8. 11:55-12:15 | 出来事を生み出す教団機関誌—1970年代の白光真宏会の事例から— | 岡本 圭史 (九大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|------------------------------------|---------------------|
| パネル | 精神的苦悩と宗教体験の諸相—思想的・臨床的アプローチ— | 代表者：藤本 拓也, 5名, 120分 |
| 13:15-15:15 | 現代における苦悩と精神医学 | 大宮司 信 (北翔大) |
| | 病者としての自己像と経験の神秘—W. ジェイムズを中心に— | 堀 雅彦 (北星学園大) |
| | シオランにおける罪責意識と宗教体験 | 藤本 拓也 (東大) |
| | マザー=テレサの闇—神の不在とイエスの遍在— | 中里 巧 (東洋大) |
| | コメンテータ・司会：鶴岡 賀雄 (東大) | |

4 日 (土)

【午前】

- | | | |
|----------------|------------------------------|-------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 日本における風の怪異と民俗信仰 | 小出亜耶子 (北大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 能代龍王講における講組織の変容 | 阿部 友紀 (東北大) |
| 3. 9:50-10:10 | 謡曲にみる宗教喧伝の側面—〈姥火〉〈姥が火〉を例として— | 今泉 隆裕 (桐蔭横浜大) |
| 4. 10:15-10:35 | 陰陽道と生活文化—東方朔写本考— | 小池 淳一 (国立歴史民俗博物館) |
| 5. 10:40-11:00 | 禊教の初期門中と弾誓流高声念仏の復興 | 荻原 稔 (都立青峰学園) |
| 6. 11:05-11:25 | 金光教の成立—象徴解釈の立場から— | 長崎 誠人 (叡山学院) |
| 7. 11:30-11:50 | 柳宗悦における「健全」の概念について | 大沢 啓徳 (早大) |
| 8. 11:55-12:15 | 東洋大学(文京区白山)周辺の富士信仰 | 大谷 正幸 |
| 9. 12:20-12:40 | 修正会と「三度坊主」—静岡県島田市智満寺と千葉集落— | 中西 裕二 (立教大) |

【午後】

- | | |
|------------------------------------|--------------------|
| パネル 「聖地・巡礼」と「ツーリズム」をめぐる | 代表者：山中 弘, 6名, 120分 |
| 14:00-16:00 「宗教」と「ツーリズム」に関する理論的諸問題 | 山中 弘 (筑波大) |
| 宗教ツーリズムの展開と聖地の空間変容 | 松井 圭介 (筑波大) |
| 「セラピーツーリズム」としての現代巡礼 | 門田 岳久 (日本学術振興会) |
| 巡礼ツーリズム—サンティアゴ・バス巡礼団の事例— | 岡本 亮輔 (日本学術振興会) |
| 聖なる旅の真正性と商品化—長崎のカトリック聖地を事例として— | 木村 勝彦 (長崎国際大) |
| | コメンテータ：外川 昌彦 (広島大) |
| | 司会：山中 弘 (筑波大) |

5 日 (日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 現代エジプト社会にみるマリア出現 | 岩崎 真紀 (筑波大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 黒人運動にみる祖先崇拜—アフリカとの縁から生まれる社会空間— | 小池 郁子 (京大) |
| 3. 9:50-10:10 | ジャマイカの宗教史におけるアフリカの「記憶」 | 上間 励起 (東大) |
| 4. 10:15-10:35 | 在米日本人移民キリスト教の史的トランスナショナリズム | 吉田 亮 (同志社大) |
| 5. 10:40-11:00 | メキシコにおけるサンタ・ムエルテ信仰の諸相 | 井上 大介 (創価大) |
| 6. 11:05-11:25 | 日本における聖母信仰とその歴史的展開 | 本間 浩 (國學院大) |
| 7. 11:30-11:50 | 「信じる」という告白をめぐる—考察 | 中村 千萩 |

4日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 祭祀儀礼にみる思想性—神饌を例に— | 吉野 亨 (國學院大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 現代における初宮参りの実態と意義 | 田口 祐子 (國學院大) |
| 3. 9:50-10:10 | 「スル」祭論の再検討—「山の寺秋葉神社どんと祭」に注目して— | 高橋 嘉代 (福島学院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 社会構造変動と神社—過疎地域の小豆島土庄町を事例に— | 冬月 律 (國學院大) |
| 5. 10:40-11:00 | 四国遍路の目的意識—澄禅『四国辺路日記』と現在との比較— | 柴谷 宗叔 (高野山大) |
| 6. 11:05-11:25 | 小菅神社(長野県飯山市)の柱松柴燈神事 | 由谷 裕哉 (小松短大) |
| 7. 11:30-11:50 | 真宗地帯における「祈祷」儀礼の継承—三重県津市の事例から— | 亀崎 敦司 (九大) |
| 8. 11:55-12:15 | 日本民間神楽における祭場の意義—神殿と天蓋を中心に— | 三村 泰臣 (広島工業大) |
| 9. 12:20-12:40 | 神楽はどう歪められてきたか?—北部九州の事例から— | 白川 琢磨 (福岡大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|--|--|
| パネル | 宗教の規範性・公共性・情念—孝本貢の業績をめぐる— | 代表者: 粟津 賢太, 5名, 120分 |
| 14:00-16:00 | 神社整理施策から100年—孝本貢の残した研究課題から—
「新宗教における先祖祭祀」研究の射程
百霊廟・千の風・万の土—墓制研究における孝本貢の位置—
戦死者慰霊研究における孝本貢の業績と残された課題 | 藤本 頼生 (神社本庁総合研究所)
永岡 崇 (阪大)
土居 浩 (ものづくり大)
西村 明 (鹿児島大) |
| | | コメンテータ・司会: 粟津 賢太 (南山宗教文化研究所) |

5日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|-------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 神道系新宗教における死者儀礼の歴史的展開—大本を事例に— | 梶 龍輔 (駒大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 清規から見た禅宗における追善供養の変遷 | 徳野 崇行 (駒大) |
| 3. 9:50-10:10 | 新宗教教団による遺骨収集ボランティアの展開—沖縄の事例— | 粟津 賢太 (南山宗教文化研究所) |
| 4. 10:15-10:35 | 社会的守護者となる死者 | 名和 清隆 (淑徳短大) |
| 5. 10:40-11:00 | 災因としての祖先の否定—現代沖縄における祖先祭祀を事例に— | 越智 郁乃 (広島大) |
| 6. 11:05-11:25 | 韓国・納骨堂に見る死者とのコミュニケーションの試み | 田中 悟 (神戸大) |
| 7. 11:30-11:50 | ディアスポラと祖先祭祀—奄美大島・濟州島移住者を通して— | 田島 忠篤 (天使大) |
| 8. 11:55-12:15 | 救済システムとしての「死者供養」の現況 | 池上 良正 (駒大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|--|--|
| パネル | メディア報道と現代宗教研究—RIRC 宗教記事 DBの可能性— | 代表者: 塚田 穂高, 5名, 120分 |
| 13:15-15:15 | 総論—RIRC 宗教記事データベースの特徴—
商業/観光資源化に直面する伝統宗教
「新しい葬儀」という言説—自然葬から直葬まで—
調査不能な対象への接近—中国の地下教会を事例として— | 塚田 穂高 (國學院大)
高橋 典史 (東京学芸大)
碧海 寿広 (宗教情報リサーチセンター)
藤野 陽平 (日本学術振興会) |
| | | コメンテータ: 磯村健太郎 (朝日新聞社)
司会: 井上 順孝 (國學院大) |

4日(土)

【午前】

- | | | |
|----------------|-------------------------------|----------------|
| 1. 9:00-9:20 | モンゴルの仏教儀礼における畜産品利用—仏灯祭を事例として— | 包 海岩 (名大) |
| 2. 9:25-9:45 | 聖書タイ語訳に関する一考察—「カミ」の訳語を中心に— | 永松 和郎 (九大) |
| 3. 9:50-10:10 | モルディヴの仏教—ガン島他— | 原 隆政 |
| 4. 10:15-10:35 | インドネシア第一世代人類学者における「文化」と「宗教」 | 相澤 里沙 (東北大) |
| 5. 10:40-11:00 | 天災・神災・人災—西スマトラ地震をめぐる語りの分析から— | 木村 敏明 (東北大) |
| 6. 11:05-11:25 | バリ島の上座部仏教の現況について | 宇治谷 顕 (名古屋音楽大) |

【午後】

- | | | |
|---------------------------|---------------------------|------------------|
| パネル ファシズム期の宗教と宗教研究 | 代表者：竹沢尚一郎, 5名, 120分 | |
| 14:00-16:00 | 日本神話学再考—ファシズム期を手がかりに— | 平藤喜久子 (國學院大) |
| | 皇道大本とファシズム運動を巡って | 川村 邦光 (阪大) |
| | 宗教的プレ・ファシズムの位置づけを巡って | 深澤 英隆 (一橋大) |
| | 崇高と聖—ファシズム期フランスの文化運動と宗教性— | 竹沢尚一郎 (国立民族学博物館) |
| | コメンテータ：鈴木 正崇 (慶大) | |
| | 司会：竹沢尚一郎 (国立民族学博物館) | |

5日(日)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 9:00-9:20 | 日本における社会福祉史の中の仏教者の役割 | 高瀬 顕功 (大正大) |
| 2. 9:25-9:45 | 近代以降の浄土真宗本願寺派の社会福祉活動について | 伊東 秀章 (龍大) |
| 3. 9:50-10:10 | 向下的共生道と社会モデルの関係を巡って—真宗障害者福祉研究— | 頼尊 恒信 (熊本学園大) |
| 4. 10:15-10:35 | 神社のバリアフリーと車椅子参拝 | 松村志真秀 (國學院大) |
| 5. 10:40-11:00 | 岩下壮一と網脇龍妙にみる宗教救済事業の意義 | 輪倉 一広 (福岡県立大) |
| 6. 11:05-11:25 | 祈る場所を維持することの困難—あるホームの歴史を中心に— | 川又 俊則 (鈴鹿短大) |
| 7. 11:30-11:50 | 宗教文化資源とまちづくりの諸相 | 黒崎 浩行 (國學院大) |
| 8. 11:55-12:15 | 現代のロシア連邦における公教育と宗教 | 井上まどか (清泉女子大) |

【午後】

- | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|-------------------|
| パネル ソーシャル・キャピタルとしての宗教—日韓英米の現状— | 代表者：稲場 圭信, 6名, 120分 | |
| 13:15-15:15 | 英米におけるソーシャル・キャピタルとしての宗教論 | 稲場 圭信 (阪大) |
| | NPO が豊かにする宗教性—伊勢神宮だから参加する人々— | 板井 正斉 (皇學館大) |
| | 地域の伝統的宗教文化におけるソーシャル・キャピタル | 長澤 壮平 (南山宗教文化研究所) |
| | マクロデータからみた現代日本の宗教とソーシャル・キャピタル | 寺沢 重法 (北大) |
| | 日韓複数宗教社会論序 | 濱田 陽 (帝京大) |
| | コメンテータ：山口 洋典 (同志社大) | |
| | 司会：稲場 圭信 (阪大) | |

4 日 (土)

【午前】

- | | | |
|----------------|--------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 統計データから見た近年の日本人の宗教性の変容 | 石井 研士 (國學院大) |
| 2. 9:25- 9:45 | NHK「こころの時代」誕生とその背景—制作者側の視点から— | 榎本 香織 (東大) |
| 3. 9:50-10:10 | 「迷信」の現代的変化 | 米井 輝圭 (昭和女子大) |
| 4. 10:15-10:35 | 怪異伝承の受容過程にみられる宗教観の特徴—高専での調査から— | 永原 順子 (高知工業高専) |
| 5. 10:40-11:00 | 示談における目覚めと面接相談における気づきについて | 友久 久雄 (龍大) |
| 6. 11:05-11:25 | 体験談と宗教意識の研究—ネット上の体験談の分析— | 河野 昌広 (早大) |
| 7. 11:30-11:50 | 体験談と宗教意識の研究—納得できる体験談とは何か— | 弓山 達也 (大正大) |
| 8. 11:55-12:15 | 体験談と宗教意識の研究—日米の体験談の比較— | 川端 亮 (阪大) |
| 9. 12:20-12:40 | 体験談と宗教意識の研究—日米調査が示す普遍宗教性と生命主義— | 渡辺 光一 (関東学院大) |

5 日 (日)

【午前】

- | | | |
|----------------|---------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 白隠の禪と現代統合医療 | 半田 栄一 |
| 2. 9:25- 9:45 | 仏教の生命論と現代的いのち・クローニング | 金 永晃 (大正大) |
| 3. 9:50-10:10 | 瞑想の評価—心理尺度と生化学的指標— | 得丸 定子 (上越教育大) |
| 4. 10:15-10:35 | 濟世病院に集う人々—宗教者と医師の交流— | 栗田 英彦 (東北大) |
| 5. 10:40-11:00 | いのちは誰のものか—生命倫理的アプローチ— | 冲永 隆子 (帝京大) |
| 6. 11:05-11:25 | 生命倫理に関する合意形成における宗教的信念の役割 | 藤枝 真 (大谷大) |
| 7. 11:30-11:50 | 臓器移植と日本人の死生観—小児生体肝移植を中心に— | 伊達 聖伸 (東北福祉大) |
| 8. 11:55-12:15 | 批判的実践学としての死生学の可能性 | 安藤 泰至 (鳥取大) |

【午後】

- | | | |
|-------------|----------------------------------|---------------------|
| パネル | 脳科学と宗教体験—現代における宗教哲学の立ち位置— | 代表者：星川 啓慈, 5名, 120分 |
| 13:15-15:15 | 脳科学や精神医学は宗教体験を侵食するのか | 杉岡 良彦 (旭川医科大) |
| | 脳科学と宗教体験における「人称」の問題 | 星川 啓慈 (大正大) |
| | 「宗教体験」批判と脳科学 | 藤田 一照 (曹洞宗国際センター) |
| | 宗教体験から見た脳と心—心身問題への逆照射— | 冲永 宜司 (帝京大) |
| | | コメンテータ：芦名 定道 (京大) |
| | | 司会：星川 啓慈 (大正大) |

レジュメの作成と提出の注意

『宗教研究』への掲載は、大会最終日までに「レジュメの紙原稿と表紙」を提出された方に限ります。必ず、23頁の「レジュメの表紙」・本文の順にホチキスでとめ、フロッピーディスク（FD）を提出される方は、FDを添えて、部会責任者にお渡し下さい。

【締切】 大会最終日（9月5日）各部会の終了時

以後の提出、訂正は一切受け付けません。完全原稿を提出して下さい。

【枚数】 パソコン原稿（縦書き）——1行40字×40行以内。 総文字数ではありません。

超過している場合は掲載できません。以下の書式をお守り下さい。

[パソコン原稿の書式] 用紙：A4横置き 設定：縦書き 1行40字×40行

文字サイズ：一律10.5ポイント 邦文のフォント：MS明朝

・1頁目——発表題目、発表者名、欧文タイトル、発表者のローマ字表記 を入力

・2頁目——本文 を入力

手書きは、400字詰原稿用紙4枚以内（但し、当方でパソコンに入力し、40字×40行以内）

【題目】 プログラムの記載と同一

【本文】 縦書き。邦文中の数字は、漢数字にして下さい。『宗教研究』は縦組みです。

注記は、本文中に括弧で挿入して下さい。図表等の掲載はできません。

常用漢字、現代仮名づかいを用いて下さい。

【欧文タイトル】 邦文題目に副題がない場合、サブタイトルを付けることは不可。

英語——邦文題目に照らして、ネイティブスピーカーが手を加えることがあります。

英語以外の言語——発表者が提出したタイトル通りに掲載します。

電子データ提出方法

紙原稿の他に、電子データ（表紙と本文の両方）もご提出下さい。

この場合も、必ず大会最終日までに、所定の表紙を付して、出力紙をご提出下さい。

メールによる電子データの送信のみでは、掲載不可です。

①大会当日に、レジュメと一緒にFDを提出される場合

FDのラベルに、氏名と「OS名・ソフト名（例：Windows・ワード）」を明記して下さい。

FDは校正刷りと一緒に返却します。

②Eメールで送信する場合

送信先：日本宗教学会事務局 ja-religion@mub.biglobe.ne.jp

9月10日（金）までに、Windows版のワード・一太郎は添付ファイルで、それ以外はメールに貼り付けて、お送り下さい。 受付開始：8月10日

メールの件名は、「レジュメ 発表者の御名前」として下さい。例：レジュメ 鈴木花子

レジュメの表紙 (すべての項目に記入して下さい。)

発表題目 縦書き。題目の字数を踏まえておおよそ、10文字以内を目安にしてください。

発表者名 縦書き

欧文タイトル 活字体。イタリックは下線で指示して下さい。
邦文題目に副題がない場合、サブタイトルを付けることは不可。

発表者名のローマ字表記 例：鈴木花子 → SUZUKI Hanako

電子データの種類について 以下に○をつけて下さい。

- 1 フロッピーディスク (会場の手渡し)
- 2 Eメール (送信済み / 9月10日までに送信)

※ レジュメの表紙は、大会ホームページ (<http://bunbun.toyo.ac.jp/intetsu/jars2010/>) からダウンロードできます。

※ 特殊文字は、プリントアウトしたものに、赤字を入れて下さい。

交通案内

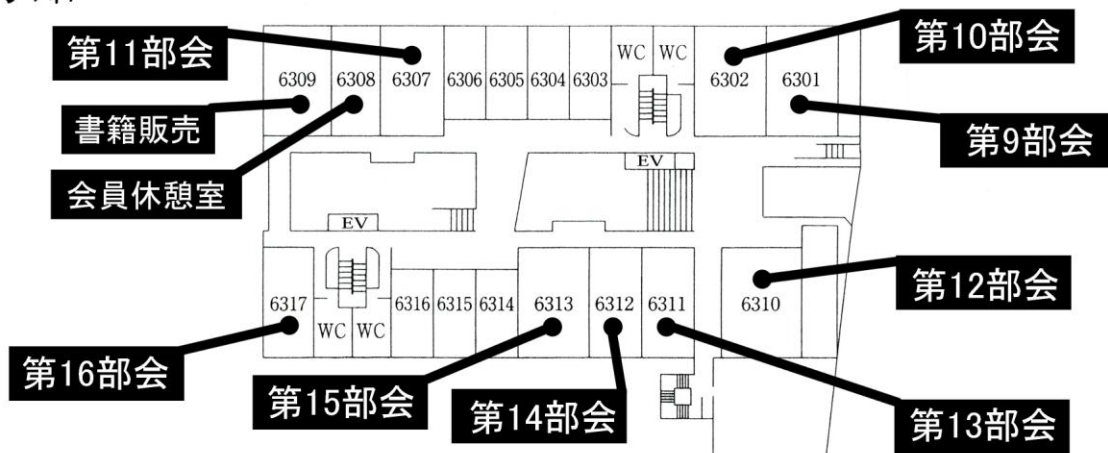
東洋大学白山キャンパス 5号館・6号館



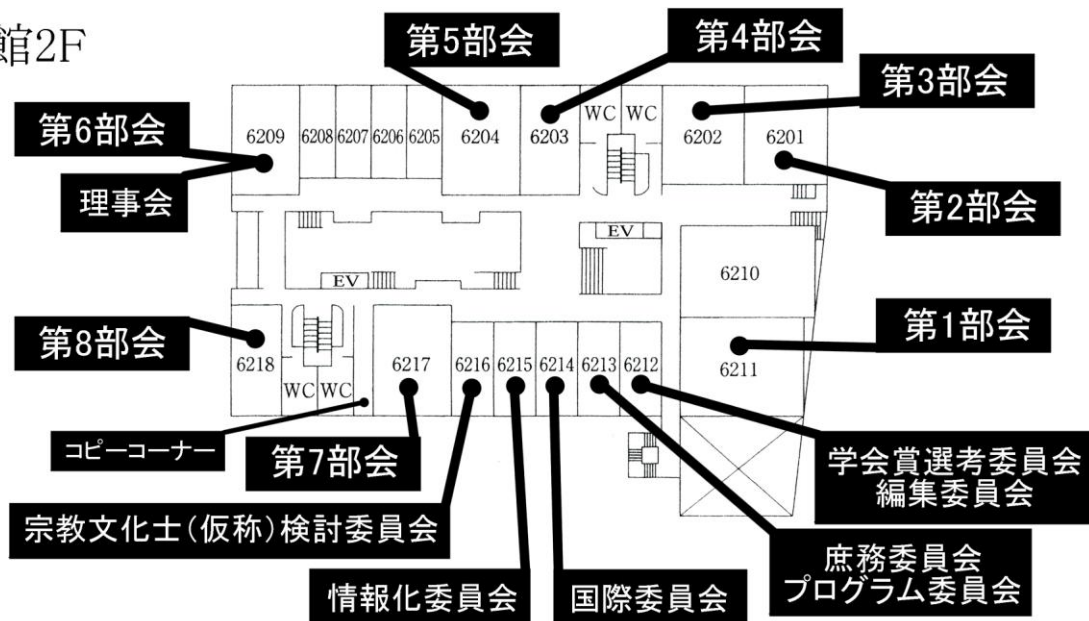
- 都営地下鉄三田線白山駅
「正面・南門」A3 出口より 徒歩 5分
「西門」A1 出口より 徒歩 5分
- 東京メトロ南北線本駒込駅
「正面・南門」1 番出口より 徒歩 5分

会場案内

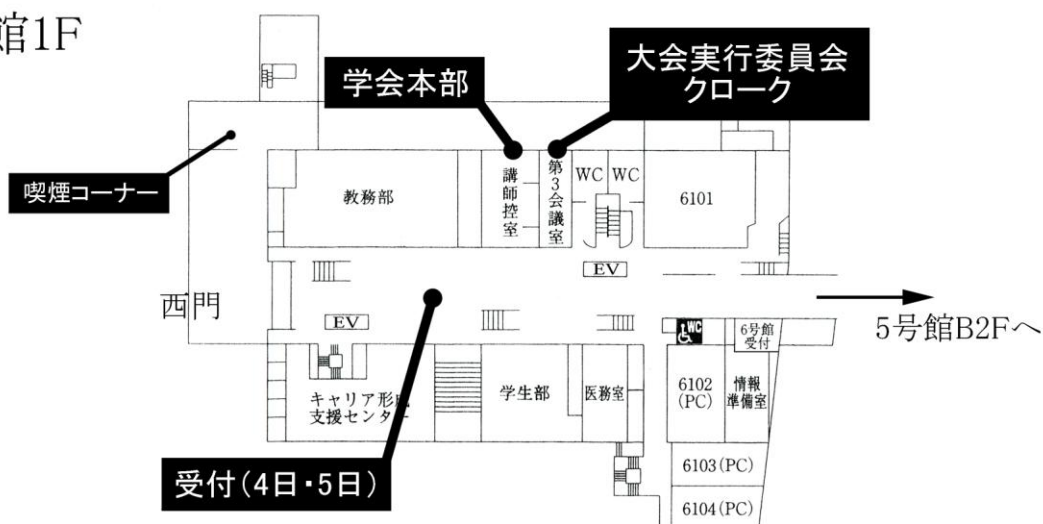
6号館3F



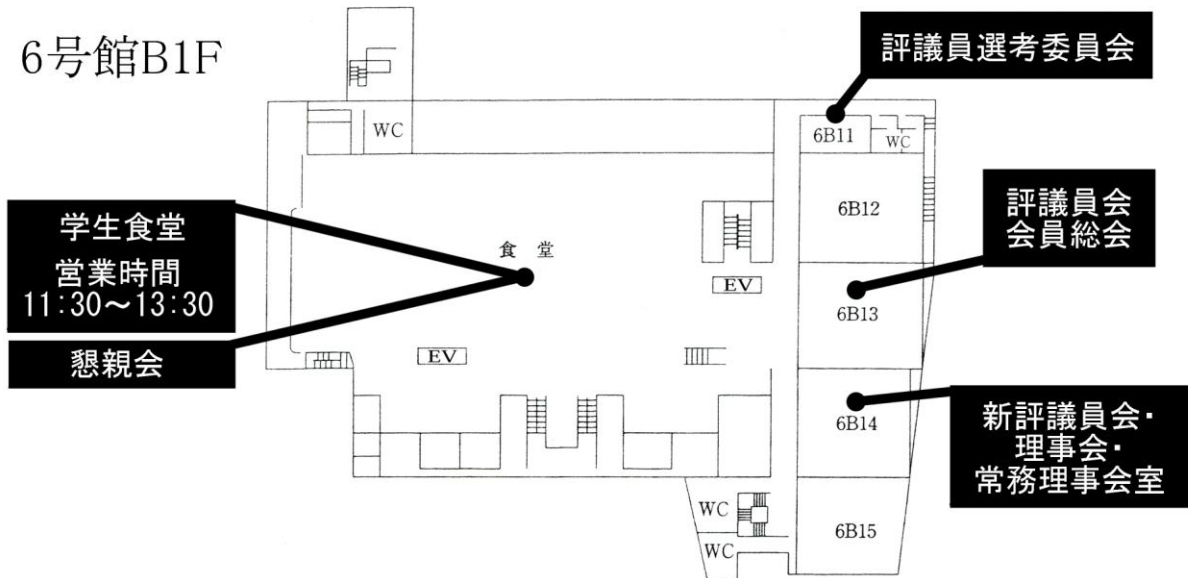
6号館2F



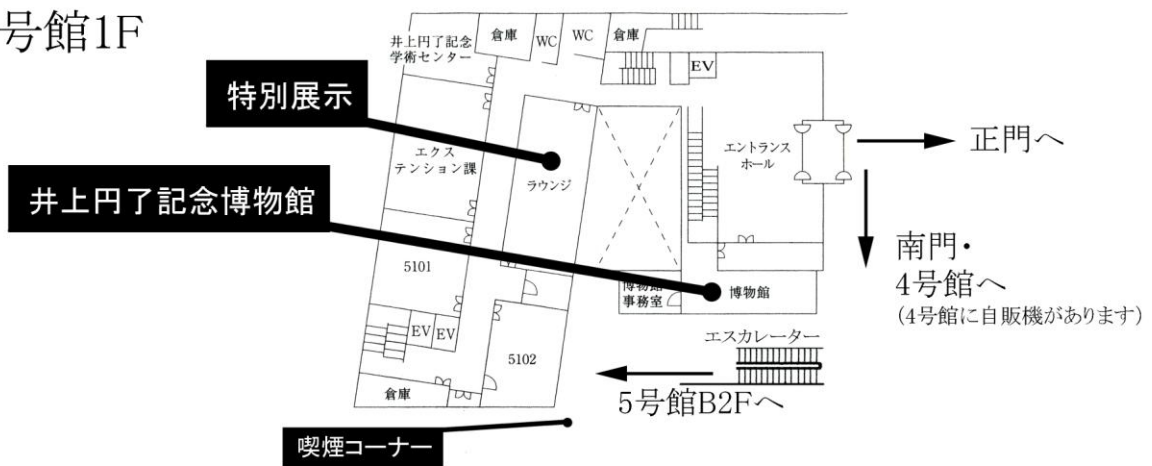
6号館1F



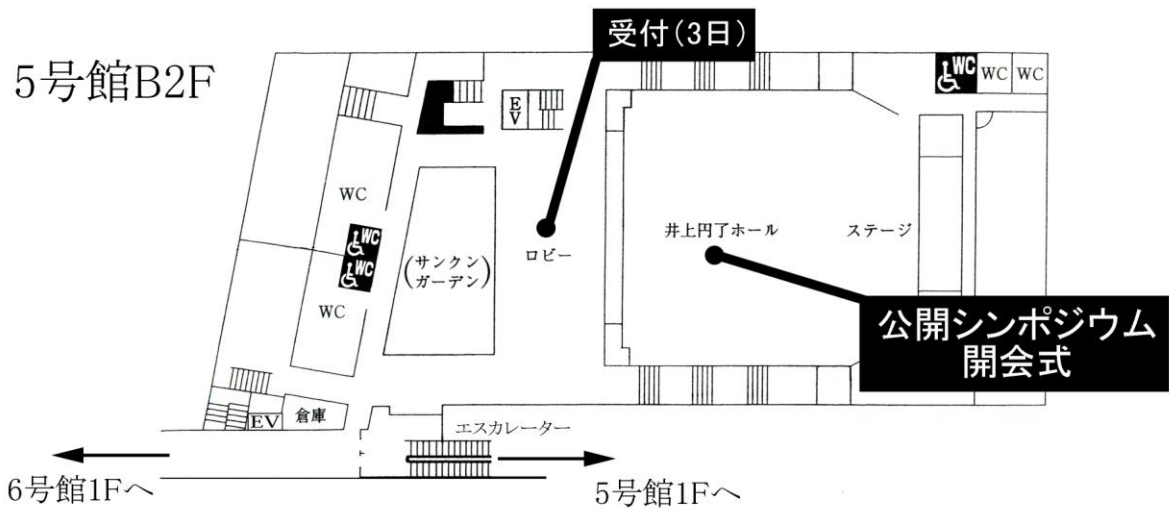
6号館B1F



5号館1F



5号館B2F



日本宗教学会
第 69 回学術大会実行委員会事務局

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20

東洋大学文学部インド哲学科内

TEL/FAX : 03-3945-7357 (インド哲学科共同研究室)

e-mail : ml-jars@ml.toyonet.toyo.ac.jp

HP : <http://bunbun.toyo.ac.jp/intetsu/jars2010/>